



おかしな天気

植物が大好きで、季節季節というよりも、その時期時期の花を撮影しては、これに専門的な解説をつけたレポートをメールに添付して送信してくるO氏がいる。O氏は植物の状況をチェックするためであろうが、気温や気象についても刻銘に記録・分析しており、先日はガクアジサイ、ハンゲシヨウ、タチアオイ、ナンテンの花とその解説に加えて、この5月の気象についてもコメントしていた。東京では「17日に31・6℃。18日には更に上昇し32・2℃の真夏日を記録しましたが、特に暑かったのはこの2日間だけ。月中を通してみると、平均気温が19・0℃と平年並み(+0・2℃)にとどまりました。爽やかというよりは曇天続き(連休後一日中晴れは17、24日の2日間のみ)で、朝の冷え込みで暖房が欠かせない日が多く」云々とある▼まさに日中の気温差が大きく、我が家でも炬燵をいつまでも片付けられずにいた。そうしたところが6月早々に台風2号がフィリピン沖で発生。当初、台湾あたりから西に向かうとの予報が一転して、列島の南海上を通過。このため愛知、静岡等で線状降水帯が発生して記録的な豪雨となつて洪水等も発生。東京の同じ市内で都市農業を営む友人I氏の畑は、強風でトウモロコシが全部倒伏。落ち着く間もなくまた今週は台風3号が来る予報。秋ならともかく、今はまだ6月だ▼新聞情報では、冬まで続いたラニーニャ現象の影響が残って夏は暑くなりそうだとの見通し。一方で、エルニーニョ現象が発生、しかも「スーパーエルニーニョ」と呼ばれた97年春から98年夏に匹敵する熱量を海水は持ち、23年から27年の5年間は世界的に記録的な高温になる可能性が高いか。気温の変化に体がついていくのが大変。先が思いやられるばかりだ。

(土着菌)